

舞踊家若松美黄による作品の イメージに関する研究

筑波大学 頭川昭子, 日本女子体育大学 若松美黄
筑波大学 唐澤優江, 平山素子, 張瓊方, 木山慶子
平尾麻衣子, 巖順善

I. 研究目的

舞踊家若松美黄は、20代から多くの舞踊作品を創作し、多数の芸術祭優秀賞などを受賞している。また、大学教授、舞踊学会会長など社会的にも活躍し、現在も舞台活動を行っている人物である。

本研究は、舞踊家若松美黄が近年に創作、上演して発表した異なる3作品のイメージについて、意味差別法を用いて導き出し、作品の特徴を明らかにすることを目的とする。

本研究の問題を解決するために、3作品の内的イメージと外的イメージを明らかにし、両者の関連から得られた結果をもとに作品の特徴を明らかにする。

II. 研究方法

1. 刺激資料

2002年から2004年に上演された作品の中から、約10分間の長さの作品に限定し、作者自身が出演している3作品が選択された。3作品は、「ガード下の自動販売機」(作者自身のソロと女性の群舞)、「ウエルナー症候群(早老病)の人形」(男女のデュエット)、「おみくじダンス」(男3名, 女1名)である。

2. 資料の収集

刺激資料は、VTRに録画された異なる3作品であり、調査には、5段階の意味差別法が用いられた。2004年7月～9月に、107名の大学生が作品を鑑賞し、46尺度で構成された内的イメージと35尺度で構成された外的イメージの2種類の調査に反応した結果が資料として用いられた。

3. 資料の処理

1) 内的イメージは、ダンスSSモデルのD1明快性次元、D2審美性次元、D3力動性次元、D4弾力性次元、D5調和性次元、D6重量性次元、D7難易性次元、D8空間性次元の8次元を用いて平均値を出し、

2) 外的イメージは、因子分析を用いて因子を抽出し、因子スコア値の平均値を導きだし、

3) 両者の結果は、2作品間のt-testを用いて有意差を明らかにした。

III. 結果とその考察

1. 内的イメージ

1) 2作品間の有意差数は、87.50パーセントで、3作品は弾力性、重量性、難易性を除く5次元において、有意な差異が見られた。

2) 3作品のイメージの方向での共通性は、難

易性難行感、弾力性柔軟感にみられた。

3) 作品ごとの内的イメージ

3作品の中で一番高い値の次元と方向を元に考察した結果、

1) 作品1は、柔軟感、不協和感、軽量感、難行感、广大感の5次元に高い値を示した。

2) 作品2は、暗然感、沈静感、柔軟感、難行感、狭小感の5次元に高い値を示した。

3) 作品3は、明快感、美的感、活動感、軽量感の4次元に高い値を示し、作品2と全ての次元で異なってイメージされたと言える。

2. 外的イメージ

1) 因子分析の結果から、D1バランス、D2回転・ジャンプ、D3移動全身、D4衣裳、D5人と物との接触、D6非移動全身、D7床との接触、D8音、D9人と人との接触、D10人のリフト、D11時空間変化の11意味次元が抽出された。移動する動きかどうかは、全身と関連があり、その他の動きに関する次元では類似する動きの尺度でまとまっていた。

2) 2作品間の有意差数は、60.61パーセントで、3作品はバランス、人と物の接触、床との接触の次元に、有意な差異が見られ、移動、非移動の全身の動きの次元で、有意差がなく、数値も中間に見られた。

4) 作品ごとの外的イメージ

3作品の中で一番高い値の次元と方向を元に考察した結果、

(1) 作品1は、回転・ジャンプ、床との接触、時空間変化の3次元に高い値を示した。

(2) 作品2は、人と物との接触の1次元に高い値を示した。

(3) 作品3は、バランス、衣裳、音、人と人との接触、人のリフトの5次元に高い値を示し、多い方向の次元数は一番であった。

IV. 結果とその考察

1. 全体的特徴

1) 内的イメージは外的イメージより多くの有意差が見られた。

2) 共通の内的イメージの方向は、柔軟感、難行感であり、高度な技術を用いた3作品であると言え、移動と非移動の全身の動きには差異が少なく、動きの量も中間であった。

3) 内的イメージで有意差の多い次元は、明快性、審美性、力動性、調和性、空間性の5次元に見られ、外的イメージでは、バランス、人と物の接触、床との接触の3次元に見られ、3作品はそれぞれ異なる特徴が見られたと言える。

2. 3作品の特徴

3作品は、内的イメージ、外的イメージそれぞれ特徴が見られ、3作品中の「おみくじダンス」は、現代の大学生の好みであったと言える。